

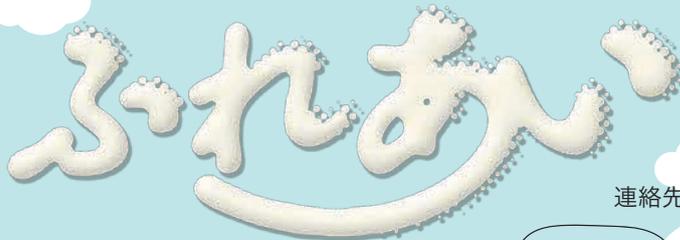


↑こちらからどうぞ

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



人権協HPが
できました!

第5回町民人権講座

子育てで深めよう！ 家族の絆

〔講師〕 ^{きやま ゆうさく} 木山 裕策さん

10月19(木)、木山裕策さん(シンガー)をお招きし「子育てで深めよう！ 家族の絆」をテーマにご講演いただきました。

木山さんは、妻と子ども4人の6人家族。家族とのコミュニケーションの取り方や子育て、自分の人生への向き合い方など、ご自身の経験を踏まえてお話されました。

木山さんは36歳の時、甲状腺がんが見つかり頭が真っ白になり何も考えられなくなったそうです。さらに、手術の前日に医師から「声が出なくなるかもしれない」と言われ、自分が誇れる「歌」までもなくなるのではと、現実を受け入れられなかったといいます。その時は、不安や悲しみよりも「大好きな歌で何もチャレンジしなかったこと」が一番の後悔となり、「手術が成功したらチャレンジしよう」と心に決めたそうです。

ここから木山さんの人生観が大きく変わっていきま
す。時間の使い方は「明日にまわそう⇒
今やらないと明日が来ないかもしれ
ない」、人との付き合い方は「今日会う人
が最後になるかもしれないから遠慮せず思ったこ
とを伝えるようにしよう」など、「死」を意識した
経験から先延ばしにすることをやめ、常に挑戦す
る生き方になりました。そんな中、子育ての方
針も変わっていったそうで、最初の頃は「子どもに
は何でもしてあげたい」という親心から子どもが転
ばない(苦労しない)ように守っていたそうですが、
大きな壁にぶつかった自身の経験から壁や障害を取
り除くことがよいことではないと気づき、どう起
き上がるか、自分自身でどう考えるかを大事に
するようになったそうです。



また、木山家ではトークタイムを大事にしている
そうで、「①自分の意見を発する、②相手の意見を引き
出し理解する、③自分の気づきと相手の気づきを共有
する、④相手の考え方を理解する」ことを意識しなが
ら社会で起こっていることを議論し、子どもが自分で
考える力を育てているとのことでした。

子育てを通して自分の成長にも繋がったと話された
木山さん。癌やコロナなど様々な壁を乗り越えたから
こそ変わったこと、見えたことがあると教えていただ
きました。講演を拝聴し、大変なことが起こったとき
も後ろ向きにならず、自分で考え向かっていける木山
さんのように行動できたら素敵だなと感じました。「一
期一会」とよく言いますが、今生きている時間、人と
の出会いは二度とないかもしれないと思い、チャレン
ジする気持ちや人との絆を大切にしていきたいと感じ
ました。

すばらしい木山さんの歌声、心が洗われました。
homeは大好きな曲です。すばらしい曲で人を癒す
こともできます。人生の一時を今夜過ごせてよかつ
たです。講演も子育てとともに成長することの大切
さを感じました。

子どもに「転んだ後どうするか、ど
う立ち上がるか、どう自分で考える
か」という言葉にすごく考えさせら
れました。息子との会話が最近減っ
てきているなあと感じていたところ
でした。息子と主人も交えて話し合
う時間を取りたいと感じました。

木山さんのお話は気さくでと
てもよかったです。病氣=マ
イナスのイメージですが、ピ
ンチがチャンス、自分の人生
を振り返るきっかけになるん
だなと改めて感じました。

子供の出産後、育児も落ち着き、もうじき働き始めよう
と思った矢先、木山さんの話を聞ける機会があり、楽しみに
来させてもらいました。今日は5才と1才を夫に任せて、
1人で来させてもらいました。今日の講演を聞いて仕事、
家事、育児のシーソー、ティータイムのお話がすごく身に
しみて、家に帰ったら夫に伝えようと思いました。夫にも
聞いて欲しかったのですが、本当に心から子供との時間
を大切にしていきたいと感じました。

第3回町民人権講座 映画「島守の塔」

8月11日(金・祝)、第3回町民人権講座として、映画「島守の塔」が上映されました。「午前の部」「午後の部」合わせて、約150名が来場されました。

太平洋戦争末期の沖縄を舞台に命や平和の尊さを描いた戦争映画。「鉄の暴風」と呼ばれたアメリカ軍からの激しい空襲や艦砲射撃、そして上陸戦により、約20万人が犠牲となった沖縄戦。軍命に従いながらも県民の命を守ろうとした戦中最後の沖縄県知事・島田叡、職務を超えて県民を守るべく奔走した警察部長・荒井退造。絶望の淵に立たされながらも「命(ぬち)どう宝」と訴え後世に希望を託した2人の人物と、戦争に翻弄される沖縄の人々の姿を描き出しています。

映画の中での印象的なフレーズ。「てるてる坊主～てる坊主～、あ～した天気にしておくれ～」。どんな苦難や苦境にたたされても笑顔で口ずさんでいた島田知事の顔が思い浮かびます。

現在も世界では戦争が繰り広げられ、多くの方が犠牲となっています。日本で二度と戦争が起こらないことを祈るとともに、今ある命を、これから生まれてくる命を大切にしなければいけない、改めてそう感じさせてくれる映画でした。



ちょうどお盆の時期にぴったりの内容でした。世界では、今も関係のない民間人が巻き込まれているので、他人ごとではないと思いました。早く穏やかな日々が訪れて欲しいです。

何不自由のない(映画の時代より)日々の中で、命の大切さ、他人に対する思いやりなど、プライベートとか個人情報とか言って、見て見ぬふりして、毎日過ごしている人の多いこと、びっくりです。この映画を通じて日々の反省の機会となって本当によかった。

沖縄戦のことを扱った映画の中でも、また新しい視点から描かれており、改めて戦争の悲惨さ、無意味さを知らされた感動的な映画でした。特に「生き抜く(命の大切さ)」ということを強く出していてよかったと思います。

人の心を持った人と、人の心を忘れた人。悲惨な戦争を起こすべきではない。この映画で改めて実感しました。今ある世界中の戦争、ウクライナの戦争も早く終わりますように。

12月4日から10日までは「人権週間」です



美浜町人権尊重啓発協議会では、人権週間にあわせて様々な人権啓発活動を行います。

人権のつどい2023

「米良美ー トーク&コンサート」

【日時】12月9日(土) 14:00~15:30
【場所】美浜町生涯学習センターなびあす
【入場】入場無料(全席自由)
・入場整理券が必要です

人権共同作品コーナー(なびあす)

【期間】12月6日(水)~12日(火) 17:00まで

人権作品入賞作品展示(なびあす)

ふれあいの「短い手紙」「絵・ポスター」「写真」の入賞作品展示
【期間】12月6日(水)~12日(火) 17:00まで

人権作品表彰式(なびあす)

ふれあいの「短い手紙」「絵・ポスター」「写真」で入賞した方々の表彰
【日時】12月9日(土)
10:00~11:00
【場所】美浜町生涯学習センター
なびあす

町内人権啓発巡回キャンペーン

町内の企業や事業所、保育園等を巡回し、啓発活動を行います。
【日時】12月4日(月) 9:00~12:00頃

人権図書紹介コーナー(美浜町立図書館)

広く人権に関わる書籍をまとめたコーナーを設置します。
【期間】12月1日(金)~12月中旬まで



人権協部会紹介 その4

町民人権講座部会



部会長
高木 賢治

町民人権講座部会では、町民の方々はじめ、県内や県外の方々を対象にして、年6回の町民人権講座を開催しています。

講座の内容は、人権を幅広くとらえ、さまざまな視点から見た内容で構成しています。

今年度は、同和、高齢者、障がい、多文化共生、子育て、命の尊厳・平和、の6テーマで開催しています。

“人権講座”というと、何か難しそう

だな、という印象を持つ方も多いのではないのでしょうか。いいえ、そんなことはありません。

今年の第2回の講座では低身長症のダン



サー、DAIKIさんが、自身のからだのことやダンサーになるまでの生い立ちなどを、明るく、楽しく、語ってくれました。また、ダンスグループSOCIAL WORKEERZのメンバーとの出会いと、メンバー自身が語るDAIKIさんの素顔なども語られ、最後にDAIKIさんとメンバーによるダンスパフォーマンスがあり、参加者も大盛り上がり講座となりました。

感想の中にも、「来て本当に良かったです。ラストの一緒にダンスタイム、最高でした。」との声もあり、参加者が楽しんで聞いてくれたことがわかりました。

この感想にあるように、私たちは「来てよかった」と思えるような講座をめ



ざしています。毎日がダンスのように楽しめる講座ばかりではありませんが、どの回も「来てよかった」と思える講座になっていると自負しています。

昨年の第6回講座では、石井千晶さん・眞澄さんのご夫妻が、自身の結婚体験を語ってくれました。その最後に「私たちの活動や話が伝わるかどうか」と心配されていました。

講座に参加してもらえれば、心にはきっと何かしらの「学び」が残ります。それを周りの人に伝えていけば、少しずつですが、「学び」が伝わります。それが次の講座へ足を運びきっかけとなるかもしれません。石井さんの心配はそうやって少しずつなくなっていくのではないのでしょうか。

人権講座はこれからも年6回ペースで行われる予定です。どうか気軽に、お話を楽しまつつもりで会場にお越しいただければと願っています。



人権コラム

民衆が戦い、勝ち抜いた国吉籠城戦

【執筆】大野 康弘

美浜町が誇る歴史遺産である佐柿の国吉城址は、町の史跡に指定され、(公財)日本城郭協会が認定する続日本百名城にも選ばれており、現在は多くの歴史愛好家やお城好きの観光客が訪れる町内観光の人気スポットでもあります。

弘治二年(一五六六)に若狭国守護大名武田氏の重臣であった栗屋越中守勝久が築城したと伝わり、今年で築城四六七年を数えますが、かつてこの地では激しい戦いが繰り広げられました。国吉城の勇名を全国に轟かせた「国吉籠城戦」です。

国吉城は、若越国境を睨む若狭国側の「境目の城」で、三方郡東部の山東地区西側で南北に立ち塞がる御岳山(標高一九七メートル)に築かれた山城でした。越前国から若狭国を横断して丹後国に至る「丹後街道」が通る腰越坂と樺峠を眼下に睨み、山肌は切り立った崖になっていて簡単に登ることが出来ず、尾根伝いには敵を迎え撃つ曲輪が各所に配され、丹後街道との間は「機織池」を天然の外堀として簡単に近づけないようになっていたなど、鉄壁の守りを誇りました。

国吉籠城戦は、実際に戦に参加した佐田の地侍、田辺半太夫安次が、戦から三〇年余を経て江戸時代初期に記した手記『国吉城之記』を、後年数多くの人々が書写して軍記『国吉籠城記』諸本(以下『籠城記』)として世に広まりました。田辺半太夫家は、江戸時代は佐田の大庄屋として山東地区をまとめ、現在も御家を残されています。

『籠城記』によれば、永禄六年(一五六三)九月、越前国敦賀から朝倉の大軍が押し寄せると、国吉城主栗屋勝久は各地に陣触れを発し、籠城の準備を整える時間稼ぎのた

め、半太夫らに関峠で敵の足止めを命じます。

勝久の陣触れに応じて三方郡の各所から約二百人の地侍が集いましたが、敵の朝倉勢は一千騎、騎馬武者は身分の高い武士で、もれなく足軽が付属しますから、実態は数千人にもなるため、たとえ国吉城に籠っても到底守り切れません。その時に立ち上がったのが、三方郡で生きる農民や商人、お坊さんや神主さん、果ては朝廷領を管理する公家の役人まで、約六百人の民衆でした。地侍と合わせて約八百人の栗屋勢が国吉城に立て籠もり、朝倉勢を撃退しました。朝倉勢はその後、織田信長によって滅亡する天正元年(一五七三)まで、ほぼ毎年国吉城に侵攻しては、三方郡を守ろうという気概に溢れた地侍や民衆が国吉城に立て籠もって激しく抵抗し、遂に一度も落城することなく、「難攻不落」を誇りました。遂には、元亀元年(一五七〇)四月二十三日、朝倉氏を攻めるべく国吉城に来た織田信長、豊臣秀吉(本下藤吉郎、徳川家康らと対面し、信長から褒められた事が記され、半太夫の感動と誇らし気な様子が想像できます。

一方で、戦争ですから犠牲も出ます。通常、軍記物は戦の名場面を激しく派手に描きますが、『籠城記』では栗屋勢で犠牲になった農民の名前も記しています。武士の華々しい戦いだけではなく、そうした戦場の悲劇も記されていて、単なる読み物に留まらない、民衆も巻き込まれたリアルな体験談としてまとめられています。

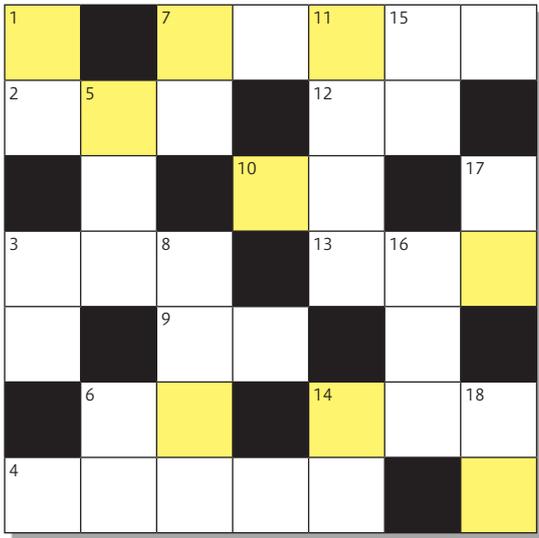
『国吉籠城記』は、戦さを生業とする武士のみに留まらず、三方郡の民衆による総力戦であり、その勝利も身分の壁を越えて郷土を守ろうという民衆の力で勝ち取ったものといえるでしょう。



こえ 声 こえ

「ふれあい」第80号をお読みになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介します。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

- ◆人権コラムを読ませて頂き、美浜を愛してくださる若い方が一人ずつ増えていくことに、高齢者である私たちの幸せが、そして感謝の気持ちが湧いてきます。頑張ってください。(N. Kさん)
- ◆人権講座の記事を読ませていただき、とても考えさせられました。だれでも認知症や病気になることがあるということで、記事を読み、もっと深く考えていかなければいけないと思えました。(K. Mさん)
- ◆人権協だよりを読むと、自分も「もっとがんばらない」といつも思います。みなさんの素敵な姿にいつも勇気がもらえます。(M. Mさん)
- ◆講演で「何度も繰り返すことで記憶には残らなくても体は覚えている」という認知症の新たな面や認知症になってもできることは無限にあることを知ることができました。(T. Mさん)



■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします)

- 答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 人権協事務局 (生涯学習センターなびあす内)
※ FAX(0770-32-1222)
E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)



感想や
ご意見も
お願いします。

- 〆切は、令和6年1月31日(水)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「はまびより」でした。たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は14名でした。

今回の当選者は **小林 房子さん 竹仲 みさゑさん**
中村 恵子さん 高木 道子さん 藤田 真士さん
以上の皆さんです。おめでとうございます!

人権クロスワードパズル 黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



タテのカギ

1. 剣道で、指先からひじのあたりまでを覆う防具のこと。
3. 『ヨコ6』が8本の生物。
5. もどかしいこと、また遠回しすぎて効果がないことを表すことわざ「○○○から目薬」。
6. ヨウ素や虚数を表すアルファベットは?
7. 間違えること。または失敗すること。
8. カルシウムやリンなど、体の機能の維持や調節に必要な栄養素。ミネラルとも言う。
11. 「湯湯姿」と書く、中にお湯を入れて寝床などを暖める道具のこと。
14. 物事をもとの状態にすること。「○○を戻す」
15. 戦争や騒動が起こること。「承久の○○」「壬申の○○」「応仁の○○」など。
16. 海水から塩を取った後の液体のこと。豆腐を固める際などに使用されます。
17. キーボードの『タテ6』のキーの右隣は?
18. 1,000kgを表す単位。

ヨコのカギ

2. ネット越しにラケットでボールを打ち合う球技。「庭球」と書きます。
3. フル○○○、リアル○○○、○○○オーバー
4. 美浜町レイクセンターの2隻目の電池推進遊覧船「grebe」の名前の意味は?
6. 歩いたりする体の部分のこと。
7. 「タイヤのメーカー」「レストランガイド」「星」から連想されるものは?
9. カイコの繭から作る繊維のこと。シルク。
10. ピアノなどの、押して音を出す部分のこと。
12. 約1,000㎡を表す面積の単位。
13. 体高147cm以下くらいの小形の馬のこと。
14. 美浜町の小三ヶ。「安江」「五十谷」あと一つは?

編集後記

◆暑い夏でした。これを読まれている頃はもうそんな暑さも忘れかけているかもしれません。暑かった夏に「笑顔」の話題を二つ見つけて職場のおたよりに書きました。一つは慶應義塾高校野球部の選手たち。もう一つは世界陸上女子やり投げの北口榛花(はるか)選手。◆慶應高校の選手たちは、ピンチのときでも笑顔でマウンドに集まり、自分たちで考えたり励まし合ったりしながら勝ち進んでいったのが印象的でした。そこには監督の「エンジョイ・ベースボール」の精神がありました。『エンジョイは楽をすることではない、自分で考えてチャレンジしようということ。』と。◆北口榛花選手がいつもはじける笑顔を見せる裏側には、お母さんの「笑顔は幸せを引き寄せる」と

いう言葉がありました。似た言葉に「笑顔は人を引き寄せる」ということがあります。いつも笑顔でいることで、仲間や励ましてくれる人、指導者や多くの人を引き寄せて、世界陸上での優勝という一番の幸せを引き寄せたのだらうと思います。◆顔の見える生活が戻ってきて、笑顔・エンジョイを実践したいと思いつつ生活をしてはいますが、コロナマスクで下がった口角はなかなか上がりませんし、エンジョイのモチベーションもそう簡単に続くものではないことに気付かされました。しかしながら、人権協の永遠のテーマである「ふれあい」のためにも笑顔・エンジョイの二つがキーワードであることは間違いなさそうです。(西)